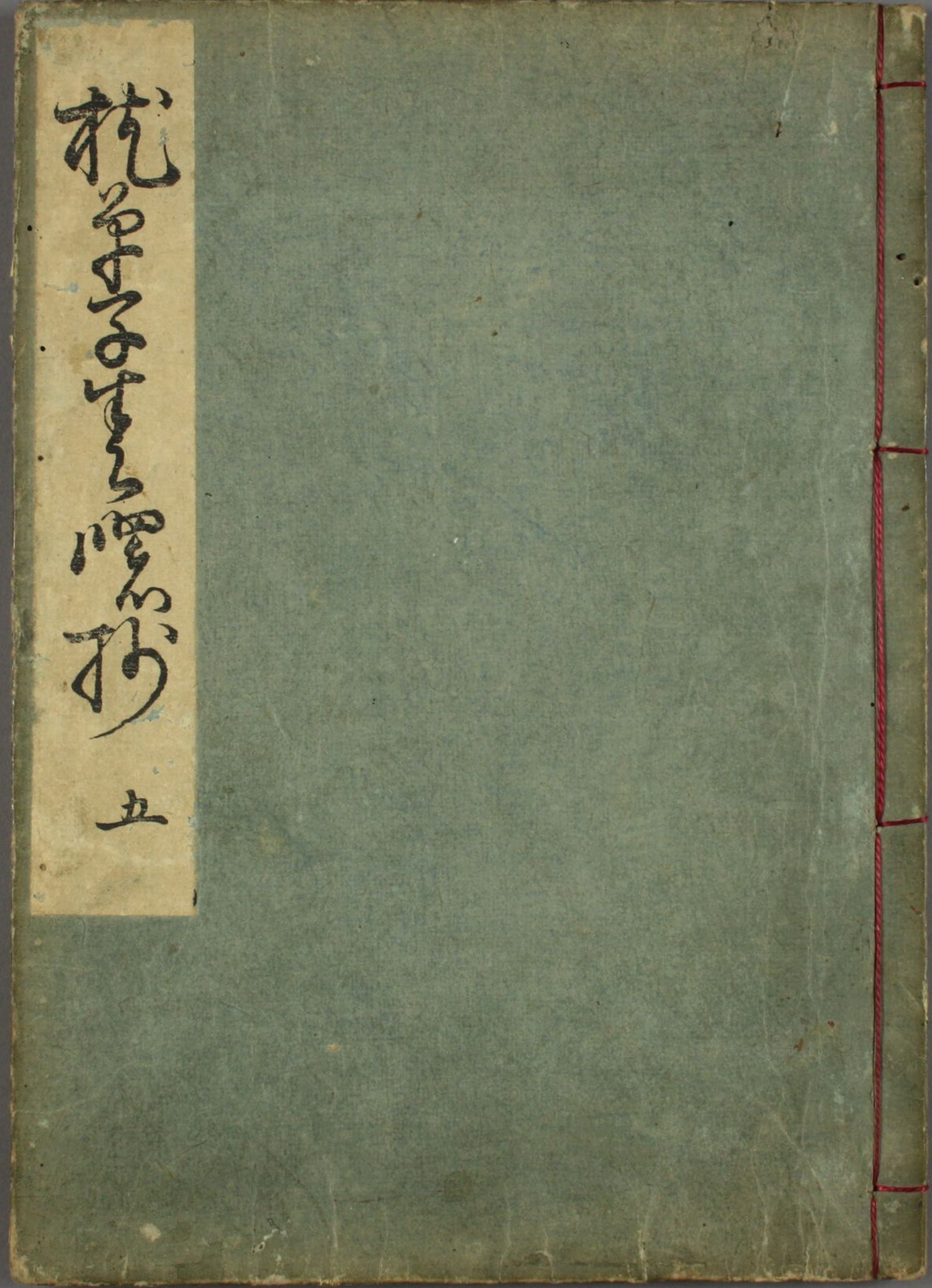


枕草子抄 五





唐錦蜀錦

正云九畫劔太刀五位以上延喜式

上延喜式桃華葉葉云劔

劔三節會内宴御襖

行幸等王卿用之

正云八二官の大倉

正云下劔劔を因近代

通螺劔を着と云

六位の人 友位不富同

六位の付下下の者と

今も補延喜式の早敷林

をゆ延喜式のれん

正云き 衆人の雑也

禁秘抄云 本貞八代

轉藏人仍公卿子孫又

諸大夫多補之職原抄云

めてしきもの

梅檀沈香凡そ後の本見

わあきかざりざら けり佛のり

りあひうく花ささあぐりささる

のねりうささる 六位乃衆人

さささるれ 正云き 衆人の雑也

きあさぬあやとらしものをゆりす

てきささるれ 衆人の雑也

さささるれ 衆人の雑也

子ととあさるれ 衆人の雑也

けりあひうく花ささあぐりささる

のねりうささる 六位乃衆人

さささるれ 正云き 衆人の雑也

きあさぬあやとらしものをゆりす

てきささるれ 衆人の雑也

さささるれ 衆人の雑也



こののめい... 天の
作せぬ人願ひりて
角と直下宣下す...
の旨... 海...
大臣のあつたれつひ
大臣の大食ふ換取栗の
俵... 大臣大食とい
大臣の... 大臣
言以下... 納...
史... 食...
江...
大臣大食...
藤氏一大臣用米器其盤
其... 職事...
聽... 依可...
月... 依...
車... 藏人...
司令... 粟等
盛折櫃二合一合...
一合... 大各居...
入... 一... 二人

衣冠相具仕下二人著荒
深持之藏人著青色袍
於對此可進錢
依事有... 藏人頭近
衛將五位藏人六位
等也下界
衣冠相具仕下二人著荒
深持之藏人著青色袍
於對此可進錢

甘栗使... 大食のあつたれつひ
大臣の大食ふ換取栗の
俵... 大臣大食とい
大臣の... 大臣
言以下... 納...
史... 食...
江...
大臣大食...
藤氏一大臣用米器其盤
其... 職事...
聽... 依可...
月... 依...
車... 藏人...
司令... 粟等
盛折櫃二合一合...
一合... 大各居...
入... 一... 二人

衣冠相具仕下二人著荒
深持之藏人著青色袍
於對此可進錢
依事有... 藏人頭近
衛將五位藏人六位
等也下界
衣冠相具仕下二人著荒
深持之藏人著青色袍
於對此可進錢

甘栗使... 大食のあつたれつひ
大臣の大食ふ換取栗の
俵... 大臣大食とい
大臣の... 大臣
言以下... 納...
史... 食...
江...
大臣大食...
藤氏一大臣用米器其盤
其... 職事...
聽... 依可...
月... 依...
車... 藏人...
司令... 粟等
盛折櫃二合一合...
一合... 大各居...
入... 一... 二人

博士の位は儒教の
紀傳明經よりなり。聖朝
云明經の子三組を以て家業
とす。紀傳を三史史記漢
書後漢書文選等と家
業とす

下らふれども 友位は
もろく文章博士は從五
位下。天子博士は正六位下
のお前。友位令より
法女乃師りて 帝乃
所 兼 是 侍 讀 之
傳 御 侍 讀 能 可 有
清 撰 世 之 所 許 明 書 也
聖 法 行 務 追 善 也
の 之 也 本 朝 之 粹 菅 家
文 草 之 一 人 讀 誦 也
と して 人 下 之 也

博士乃智博し於書三博士は侍讀の事なり
とくせ乃さあるいしてあてたりとつめとる
ありがわいしあけりけらうあれども世
の會史より母より
やんといふきわたりあてられ明もいほあよ
ちうきまのりはあし事あつたりせりあ

法女乃師りて 帝乃
所 兼 是 侍 讀 之
傳 御 侍 讀 能 可 有
清 撰 世 之 所 許 明 書 也
聖 法 行 務 追 善 也
の 之 也 本 朝 之 粹 菅 家
文 草 之 一 人 讀 誦 也
と して 人 下 之 也

了又の位は儒教の
紀傳明經よりなり。聖朝
云明經の子三組を以て家業
とす。紀傳を三史史記漢
書後漢書文選等と家
業とす

内膳へつわたり
百寮訓要の内膳因天
供物をせしむる事
ハ膳部正少輔の同奉
昔ハ内膳の供物を
とす

内膳法へつわたり
百寮訓要の内膳因天
供物をせしむる事
ハ膳部正少輔の同奉
昔ハ内膳の供物を
とす

内膳へつわたり
百寮訓要の内膳因天
供物をせしむる事
ハ膳部正少輔の同奉
昔ハ内膳の供物を
とす

具足 今上乃父 一条院の弟乃皇子 敦康親王乃孫也 出女乃文定子乃孫 清淑父乃内大臣伊周 中納言隆家乃孫也 上は乃父

あまのり 優美なる せんら 公世なる 持家乃子思は乃孫 ことなりし 乃父なる 表袴

乃父なる 乃母なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる

乃父なる 乃母なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる

いりきなる 雪乃なり 今上 乃父なる 乃母なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる

あまのり 乃父なる 乃母なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる

乃父なる 乃母なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる 乃孫なる

くらきぐころ
 そり几帳乃終々様秘
 抄法淨教のあまのつく
 四面有ル帳惟夏生以胡
 務畫葦雀冬村本形
 三〇

いろり乃と 猫乃鯛子碗
 をほけてゆきゆけて猫
 と引とめてゆきゆけて
 一〇〇〇〇

二月乃せられあめは
 人 二月ある此等よ
 内侍女爲人續命變と
 群長よりまよひたき條
 情うあうおほはるまを
 あやめれ花人といあや
 ころひもりふふあは
 赤紐ハる等るの附紘
 をこくしてあやひし

ぶーいーいーわーわーいーいー あやめ
 あふふとれちうちうちうちうちうちうち
 ちうちうちうちうちうちうちうちうち
 ひもれさきあひつれいふいふいふ
 乃とちうちうちあふあふあふあふあふあふ
 のわーちうちうちうちうちうちうちうち
 首綱(猫のりつぎ) 猫の名あふまてれ
 ういふあふいふあふあふあふあふあふ
 三二月乃せらるあやめれ花人さうぶ
 ころころあふいふあふあふあふあふあふ
 立並へんころあふあふあふあふあふ
 ころころあふいふあふあふあふあふあふ

立並へんころあふあふあふあふあふ

ひをけて泥結なま
 て乃肩小二筋はる
 事ゆり。葛葉のあふ
 ころひもりふふあは
 あやめれ花人といあ
 ひれくころあはるま
 領巾 裙帯也 順和堂
 領巾 日本紀私記云比礼婦
 人項上 饒也 裙帯
 和名云白氏文集云青羅
 裙帯 裙帯此同云如也

いーいーあふあふいーいーいーいー
 はけくがさしといまもいーいー
 ひろり乃わいーいーいーいー
 あふあふー 六位乃あをいー乃との井
 まごさーいーいーいー乃いーいー
 乃わーいーいーあふいー

六位乃あをいー乃との井

いーいー乃わいーいー 又さり乃
 吹芽冬入先童女一人持火取次童女一人持蘭
 とくく天童 気持明乃等命小忌衣さつさつ
 忌大夫あひつるれ也。紅乃さつさつせいの
 たり乃すごききげたりめまるとてさる。河海
 土月の中日月新嘗會辰日光明寺さる山あは
 一〇〇〇。一代一乃乃大嘗會さるの
 見んド乃まりの衆人さる八幡さるの
 又さるのさるいー 又さり乃衆妓乃
 五人 其後年、新嘗會時四人。又日揮良家女未嫁者置為五節妓

又さるのさるいー 又さり乃衆妓乃

ふせらるはがねをそ

らちりすしり

辰見後式をそそ

らるるわ

そそりあめとのあそ

せしては後式をたあ

すわがすねさ房を

こがらやもれあを

い藤枝のさあやの

うりしてあをい

といてあをい

とてはあをい

あ

小常よりか

女房にお小常度

を右近内侍よ

一人がぶ

さねゆりの中侍

寛方正暦二年九月

中侍元右馬以五年九月

八日在中侍

とせらるはがねをそ

らちりすしり

辰見後式をそそ

らるるわ

そそりあめとのあそ

せしては後式をたあ

すわがすねさ房を

こがらやもれあを

い藤枝のさあやの

うりしてあをい

といてあをい

とてはあをい

あ

小常よりか

女房にお小常度

を右近内侍よ

一人がぶ

さねゆりの中侍

寛方正暦二年九月

中侍元右馬以五年九月

八日在中侍

あ

小常よりか

女房にお小常度

を右近内侍よ

一人がぶ

さねゆりの中侍

寛方正暦二年九月

中侍元右馬以五年九月

八日在中侍

あ

小常よりか

女房にお小常度

を右近内侍よ

一人がぶ

さねゆりの中侍

寛方正暦二年九月

中侍元右馬以五年九月

八日在中侍

あ

是川八山の枕を

あひ乃むとわれ

山井乃あはるる

下るは彼赤細の

を歩をいしと

よやれよめり

拾遺集難を

再し彼集を

さねゆりの中侍

寛方正暦二年九月

中侍元右馬以五年九月

八日在中侍

あ

小常よりか

女房にお小常度

を右近内侍よ

一人がぶ

さねゆりの中侍

寛方正暦二年九月

中侍元右馬以五年九月

八日在中侍

あ

言集抄とて

西宮抄

宜陽殿

納花人所

琵琶行

始出来

猶抱琵琶半遮面

日向

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

言集抄とて

西宮抄

宜陽殿

納花人所

琵琶行

始出来

猶抱琵琶半遮面

日向

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

誰と

銘

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

たつハ中国自道隆の

家と縁ゆ。奥より隆

る乃 横着あつて一切

能休生原のありし出

れあうびと

世房建立うひあふこ

ころり

付くころが 不時替

附をころり時をころり

たのころり

ちりくともじりた

世房めんくころりあ

後るあふり又合を

中いきのたも

余姉のめい 左のほ

くはくろし

かせあひせん

糸の首を合せんす

ナリ

りやうとおひこころ

らをととぬいさる

人乃けよあまめ

綾ハ級あうころり

も又うすき地たは

ぬいさる人乃りや

たりやうぬいさる

あまめい

あまめいねら

あまめいねら

あまめいねら

あんどんうあひまひあうくしんぐしんれが

あれあうびをきつらごのよあつまりあま

きくあまめい。これに今と今のあまの誰と

これと何つあつて時をさすぬひしてさうせ

よしてひいぬいこのほぐをまかせられど

みあしとりてうあひまひあうて時がぬい

づ。誰うとくぬいあまのさうさつうらくも

じらうすあまめいとぬいさる。余姉の

めいこいとくぬいさるころりあまめい

ひ長のちんのころりあまめい

いけりうくはほまぬいさるころりあま

ぬあまをさつてけとぬいさるころりあま

まぬいさるころりあまめい。あまめい

こすれどいぬいさるころりあまめい

のまひさくこれぬいあまめい

これぬいあまめいころりあまめいと

さんほやあまめいとぬいさるころりあま

らんぬいさるころりあまめいとぬいさる

らんぬいさるころりあまめいとぬいさる

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

あまめいとぬいさるころりあまめいとぬい

ねむるかみみはひさかたの
 のを女達のあまの
 ひろくろのかりがき人
 へくくも世神のあ
 とおらう
 さいなむひさかたの
 黒琴コグマよくきまご
 の二巻にまきなりけり
 人さゆらゆと不世乃
 正作せいさくをまがひひり
 へんらんぐり孫まごも
 いまきいまておまのや
 りまきゆめをまけり
 らまみわふふまみなりけり
 こころ
白氏文集樂府五名上
唐詩集五言欲成中央
折ツキ
 ところせくえくまきや
 車きぬゆめをまけり
 へのくもむむくゆめ

しき入るりむりかたせへんくわ
 ままひつりけくくひひ
 てゆめひつりけくくひひ
 うりけくくわくくま
 くのむむむむむむむむ
衆の御中より
 ちりつりけくくひひ
 まむむむむむむむむ
 あままむむむむむ

りぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり
 車乃りぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり
 まむむむむむむむむむむむむ
 まむむむむむむむむむむむむ
 りぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり

白氏文集樂府五名上
唐詩集五言欲成中央
折ツキ
 ところせくえくまきや
 車きぬゆめをまけり
 へのくもむむくゆめ

ねむるかみみはひさかたの
 のを女達のあまの
 ひろくろのかりがき人
 へくくも世神のあ
 とおらう
 さいなむひさかたの
 黒琴コグマよくきまご
 の二巻にまきなりけり
 人さゆらゆと不世乃
 正作せいさくをまがひひり
 へんらんぐり孫まごも
 いまきいまておまのや
 りまきゆめをまけり
 らまみわふふまみなりけり
 こころ
白氏文集樂府五名上
唐詩集五言欲成中央
折ツキ
 ところせくえくまきや
 車きぬゆめをまけり
 へのくもむむくゆめ

大僧正だいそうじょう正定
 河海抄かうかいしやう賭射記
 法和天皇の貞觀二年正
 月十八日しんげつ賭射の天子
 弓場殿ゆみば率すげまきや
 を清光きよみつすまけり春の
 月乃つきを足あすまき記
しりゆめを四符しほを近奉きんほうの
しり人射しりまきの大將
しり射しりまきまきまき
しり射しりまきまきまき
しり射しりまきまきまき
しり射しりまきまきまき

りぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり
 車乃りぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり
 まむむむむむむむむむむむむ
 まむむむむむむむむむむむむ
 りぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐりぐり

大僧正だいそうじょう正定
 河海抄かうかいしやう賭射記
 法和天皇の貞觀二年正
 月十八日しんげつ賭射の天子
 弓場殿ゆみば率すげまきや
 を清光きよみつすまけり春の
 月乃つきを足あすまき記
しりゆめを四符しほを近奉きんほうの
しり人射しりまきの大將
しり射しりまきまきまき
しり射しりまきまきまき
しり射しりまきまきまき
しり射しりまきまきまき

はなれみくらや
さもあつぱつたれや
よしもあつぱつたれや

うのりまがね
やうあつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

はなれみくらや
さもあつぱつたれや
よしもあつぱつたれや

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

あつぱつたれや
うのりまがね
うのりまがね

うのりまがね
あつぱつたれや
うのりまがね

口せ延武吉は

あつては...
喘息...
あつては...

打つりく...
免...
...

ほかの...
...

はりの...

あつては...

わ...
...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...

あつては...
追...
...

あつては...
追...
...

唐の引がゆきり
を愛しき

かくとけいせれ
かやしく乃首尾は
年ハムケのゆきり

あつて
きつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

教信法一条乃かりち
わがまわしひねる

ことせめがうくとけい
事やうんあめいん

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

宰相乃きり

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

あつて
あつて
あつて
あつて

神乃の神にまはり
雷乃の神にまはり
人乃の神にまはり
鳥乃の神にまはり
虫乃の神にまはり
魚乃の神にまはり
草乃の神にまはり
木乃の神にまはり
土乃の神にまはり
水乃の神にまはり

あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ

あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ

あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ

あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ

あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ

あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ

あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ
あまのついでに
かみなりとよまはり
まはりもひはれぬ

あく藤をきしつと
こゝろのまじり
けつん けつん
しんせいの海にだん
きんせいの海にだん
帯本まにのまじり
けつん けつん
わつとわつと
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん
孫之輔がしんせいの

こゝろをけつんと
しんせいの海にだん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん

え輔のしんせいの
けつん けつん
けつん けつん

しんせいの海にだん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん

え輔のしんせいの
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん

しんせいの海にだん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん
けつん けつん

二二の中ハ 第二身示
おられて死ともも
かきま

一業の位なり

是方位乃より

一業乃位

事也 寂為第一乃位

是は彼位乃の第一

乃位ニ三二

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

これあらしめて河人二三
一也にわんあどり二案乃

法あらしめて人

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

乃位乃位

九品蓮臺乃中ハ 明詠乃詞
也 在樂寺定三願 慶保
足 極中の上生
人

九品蓮臺乃中ハ 明詠乃詞
也 在樂寺定三願 慶保
足 極中の上生
人

生まれ或ハ上品中生上
下ハ或ハ中品上中
下ハ九品乃位
観無量壽經ノ者
人

生まれ或ハ上品中生上
下ハ或ハ中品上中
下ハ九品乃位
観無量壽經ノ者
人

いひ及ぶ片腹痛まゐの肉
よしくとみおたままを
人毎ふまをさしむる
バツクさうさうさう

藤原信経中納言兼
輔の曾孫推正乃孫彦
貞守為長の色也勅物
云信経長徳元年正月
十日藏入三年正月式
部丞

せんくくねり 遺襦料
ふも順和若云襦 種襦也
今兼毛席也俗 襦の度
くそ作とと中 里記
せんくくねり せんくくと

わひくくさの せんくくと
をうさくせ 洗足神
さうさくめく 洗足神
くくくくく 片腹痛
くくくくく 片腹痛

おつぎこい乃とや

勅物云皇后宮安子康保
元年四月廿四日崩世
村上乃九乃右大臣時輔
乃女皇太后官官贈官也
各世をさうさうさうさう
乃のこまきり 勅物云時柄

康保五年正月廿八日美
濃守長保三年五月三日
藏入兵部丞被補作物
所別賞

かまひえりくも 然相
手に携ひ出てもつた
やんばね名出合ふま
莫求の塵積被隠よ出
合ふて同隆士竜こ名の
うらた首尾目下首鳴
鶴と名のしに似たり
又さうさうさうさう
くくくくく 今さう
かくせに云侍はあ

そ亦別乃秀乃此のうり
あ乃うりて入るるる
中六勅物乃まうり
あく本乃乃せうのふ
るも知体乃襦とさう
乃まねねうゆさうさ
はらぬ

ちりさうわれれあれ
襦と誰ぞさうさう
わひくくめさるる
はらぬ

あんとくくあせん
信経乃海 信経乃海
さうまをこれハ信
あもあは信のぶつ
はらぬ

はらぬ
あもあは信のぶつ
はらぬ

も亦別乃秀乃此のうり

あもあは信のぶつ
はらぬ

あもあは信のぶつ
はらぬ

あもあは信のぶつ
はらぬ

乃ほ名れ回春まよふ
やうなるもなきも
れ又時々の
けえわきまなきも
原のほろあまを
つひのまよふも
さうも赤時
せし
うらも奇も
詩身くまも
あつが
さうも時
ふと利に
けし
まの
人ま
よま
て
ま

奇も
あり
時
い
あ
清
ぬ
あ
か

春曙抄五終

